

依然として低迷続く消費マインド

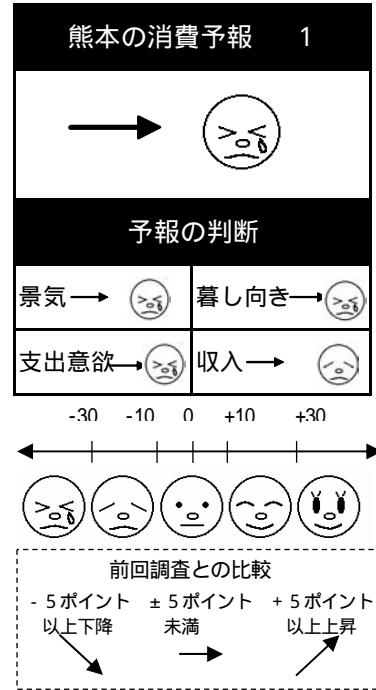
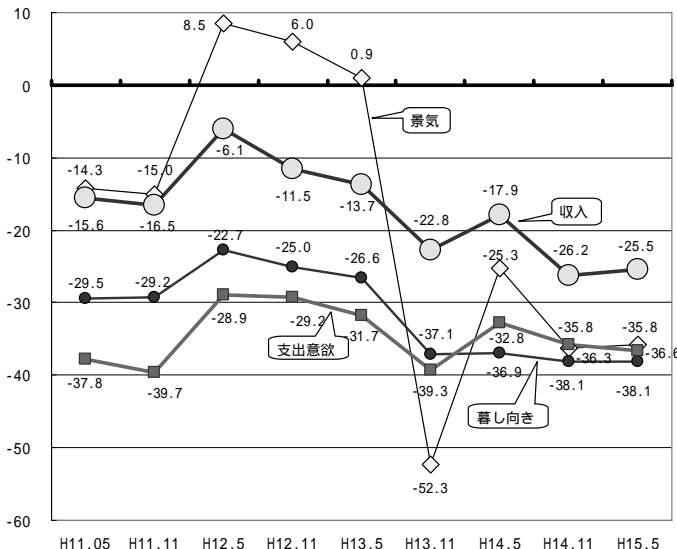
熊本の今後半年間の消費予報【要約】

今回の調査では、消費予報の指標としている「景気」、「暮らし向き」、「支出意欲」、「収入」の4項目の“見通し”はいずれも前回調査結果とほぼ同じ水準のままであった。前回減退傾向を示した消費マインドは横ばい状態で、引き続き低迷したままである。

項目別にみると、前回11.0ポイント低下した「景気」見通しD.I.は0.5ポイントとわずかに上昇したがほぼ横ばいの35.8を示し、前回4項目の中で最も低いD.I.であった「暮らし向き」は前回から変わらず38.1のままであった。また、「支出意欲」D.I.はわずかではあるが4項目の中で唯一前回は下回る36.6を示し、「収入」見通しD.I.は調査開始以来の最低であった前回より0.7ポイント上昇したものの、25.5と過去の調査の中で2番目に低い水準であった。

前回、減退傾向に転じた消費マインドは医療費・社会保険や教育費の負担増、年金カット、リストラへの不安などから、依然として低迷したままである。

【今後の見通しD.I.の推移】



1 消費予報の読み方

本調査では、消費マインドに影響する『景気』と『暮らし向き』と『支出意欲(支出の引き締め)』に対する意識、実際の消費に関わる『収入』の増減、4つの項目について今後半年の見通しを質問している。数値(D.I.)は、「良くなる(増えそう、緩める)」と回答した人の割合(%)から、「悪くなる(減りそう、引き締める)」と回答した人の割合(%)を引いて算出した〔数値の算出方法の詳細は、次頁以降の項目ごとに説明〕4つの項目と『支出』から総合的に判断し、熊本の消費の予報を試みた。

【調査概要】

調査対象：熊本市在住の20代から60代の女性モニター435人

調査時期：平成15年5月

調査方法：郵送法

回答者の属性

| 年齢 | 実数 | % |
|-----|-----|-------|
| 20代 | 90 | 20.7 |
| 30代 | 83 | 19.1 |
| 40代 | 80 | 18.4 |
| 50代 | 91 | 20.9 |
| 60代 | 91 | 20.9 |
| 合計 | 435 | 100.0 |

景気の見通し

今後半年間の景気の見通し D.I.は、▲35.8で、前回 11.0 ポイント低下した後、0.5 ポイントとわずかに改善したものの、低水準のままであった。年代別では 20 代、30 代は前回よりそれぞれ 3.9 ポイント、6.6 ポイント改善したが、50 代では 4.0 ポイント悪化して▲47.7 となり、50 代、60 代は 20 代、30 代に比べ厳しい見方となった。

景気が「良くなる、まあ良くなる」という回答は全体の 5.6%に過ぎず（図表 1）その理由のコメントには“期待をこめて”という回答もあり、景気回復を見込む人は極めて少ないままである。また、「やや悪くなる、悪くなる」理由として倒産や失業者の増加、株安に加え、新型肺炎 S A R S やイラク戦争の影響を挙げている自由回答も多かった。

暮らし向きの見通し

暮らし向きの見通し D.I.は、前回と同じ▲38.1 のままで、4 項目の D.I.中、最も低い水準だった。年代別では 30 代と 40 代が前回より悪化し 40 代の D.I.は▲50.8 に落ち込んだ。50 代は前回より 5.5 ポイント改善しているとはいえ▲43.4 と 40 代に次いで低かった。30 代から 50 代の見通しは厳しく、中でも 40 代は暮らし向きが「悪くなる」（「やや悪くなる」を含む）と予想する割合が半数を超えている（図表 2）。

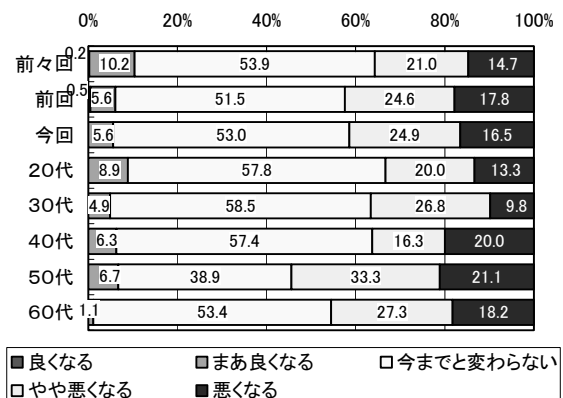
見通しが厳しい理由として自由回答には、“収入は増えないのに税金や医療費、介護保険などの負担が増える”などの社会的負担や教育費の増加、年金のカットなどのコメントが寄せられており、実質的な可処分所得の減少が厳しい見通しにつながっているようだ。

【景気の見通し D.I.】

D.I.=(「良くなる」+「まあ良くなる」)-(「悪くなる」+「やや悪くなる」)

| → () | 今回 | | 前回 | 前々回 |
|-------|---------|------|----------|---------|
| | (H15.5) | 前回比 | (H14.11) | (H14.5) |
| 全体 | 35.8 | +0.5 | 36.3 | 25.3 |
| 20代 | 24.4 | +3.9 | 28.3 | 20.9 |
| 30代 | 31.7 | +6.6 | 38.3 | 33.3 |
| 40代 | 30.0 | 3.8 | 26.2 | 27.5 |
| 50代 | 47.7 | 4.0 | 43.7 | 20.3 |
| 60代 | 44.4 | 2.7 | 41.7 | 24.4 |

図表 1 今後半年間の景気の見通し

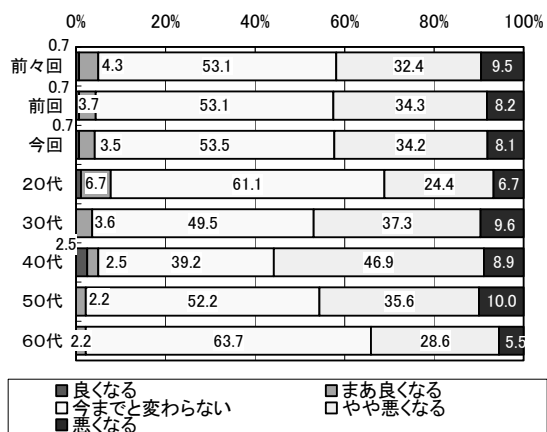


【暮らし向きの見通し D.I.】

D.I.=(「良くなる」+「まあ良くなる」)-(「悪くなる」+「やや悪くなる」)

| → () | 今回 | | 前回 | 前々回 |
|-------|---------|------|----------|---------|
| | (H15.5) | 前回比 | (H14.11) | (H14.5) |
| 全体 | 38.1 | +0.0 | 38.1 | 36.9 |
| 20代 | 23.3 | +2.1 | 25.4 | 27.4 |
| 30代 | 43.3 | 13.0 | 30.3 | 42.4 |
| 40代 | 50.8 | 7.9 | 42.9 | 43.2 |
| 50代 | 43.4 | +5.5 | 48.9 | 37.6 |
| 60代 | 31.9 | +7.8 | 39.7 | 33.0 |

図表 2 今後の暮らし向きの見通し



支出意欲（支出の引き締め具合）

今後支出を緩めるかどうかをみる支出意欲 D.I.は 36.6 で、4 項目中ただひとつ悪化していた。依然として支出を引き締めようとする傾向が強く、財布の紐が固い様子が見える。年代別にみると、30 代が前回から 10.0 ポイントも悪化し、53.1 に落ち込み、支出を「引き締める」（「少し引き締める」も含む）割合は 55.5%と半数を超え、引き締め感がひととき強い（図表 3）。30 代以外の年代は前回に比べ、ほぼ横ばいから若干改善しているが、40 代、50 代の D.I.は依然として 40 を下回る低水準のままである。こうした中において 60 代の D.I.は 18.8 と、先に見た景気の見通しや暮らし向きの見通しほど低くはなく、消費は比較的安定していると思われる。

収入の見通し

今後半年間の収入見通し D.I.は 25.5 で、前回をわずかに上回った。年代別にみても大きな変化はみられず、前回かなり悪化した 20 代、50 代と 60 代はほぼ横ばいであった。特に 50 代は 43.8 と一段と低い水準のままで、44.9%は収入が「減りそう」と見通している（図表 4）。このアンケートの対象は女性で、既婚者が多い 50 代では夫の年齢が 50 代後半から 60 代という世帯も多いと思われ、夫が定年を迎え年金生活に入るといった変化も影響しているものと思われる。

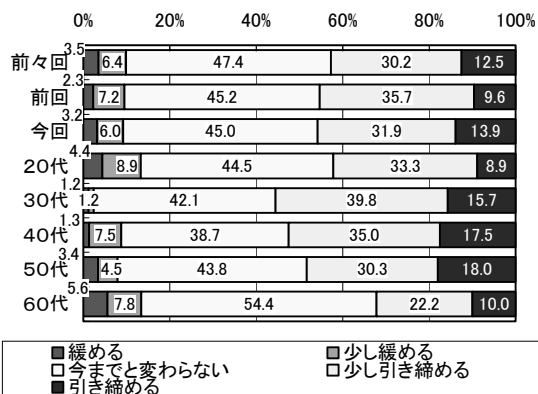
また、他の 3 項目に比べ収入見通し D.I.の水準は最も高いが、収入増を見込む訳ではなく、支出は子供の成長に伴って増え、しかも少子高齢化による社会負担増も検討されていることから、暮らし向きや支出意欲の見通しはより厳しくなっているようだ。

【支出意欲D.I.】

D.I.=（「緩める」+「少し緩める」）-（「少し引き締める」+「引き締める」）

| → | 今回 | | 前回 (H14.11) | 前々回 (H14.5) |
|-----|---------|------|----------------|----------------|
| | (H15.5) | 前回比 | | |
| 全体 | 36.6 | 0.8 | 35.8 | 32.8 |
| 20代 | 28.9 | +1.0 | 29.9 | 23.4 |
| 30代 | 53.1 | 10.0 | 43.1 | 40.0 |
| 40代 | 43.7 | +2.7 | 46.4 | 47.7 |
| 50代 | 40.4 | +2.1 | 42.5 | 39.4 |
| 60代 | 18.8 | 0.4 | 18.4 | 13.8 |

図表 3 支出意欲（支出の引き締め具合）

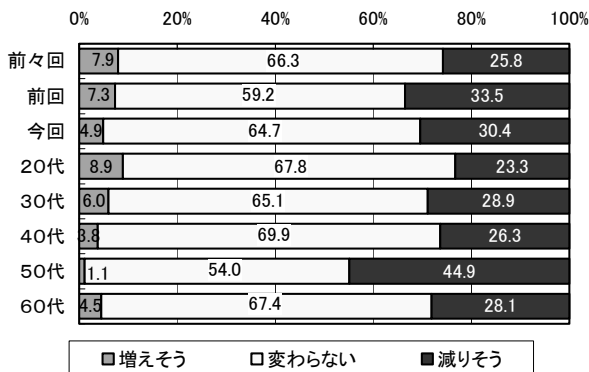


【収入の見通しD.I.】

D.I.=「増えそう」-「減りそう」

| → | 今回 | | 前回 (H14.11) | 前々回 (H14.5) |
|-----|---------|------|----------------|----------------|
| | (H15.5) | 前回比 | | |
| 全体 | 25.5 | +0.7 | 26.2 | 17.9 |
| 20代 | 14.4 | 0.9 | 13.5 | 2.7 |
| 30代 | 22.9 | 2.0 | 20.9 | 23.2 |
| 40代 | 22.5 | +3.1 | 25.6 | 25.6 |
| 50代 | 43.8 | 0.1 | 43.7 | 20.0 |
| 60代 | 23.6 | +1.0 | 24.6 | 15.6 |

図表 4 今後半年間の収入の見通し



支出：日常的支出（現状と見通し）

ここ半年間の日常的な支出品目のD.I.をみると、前回調査まで常にプラス水準であった「日常の食費」D.I.が今回は0.2と初めてマイナスに転じ、食費も節約を心がけている様子がうかがえた。また「自分の趣味、習い事」、「おしゃれ着」や「雑貨、文具」ではマイナス水準ながら前回より改善がみられたが、いずれもわずかであった。

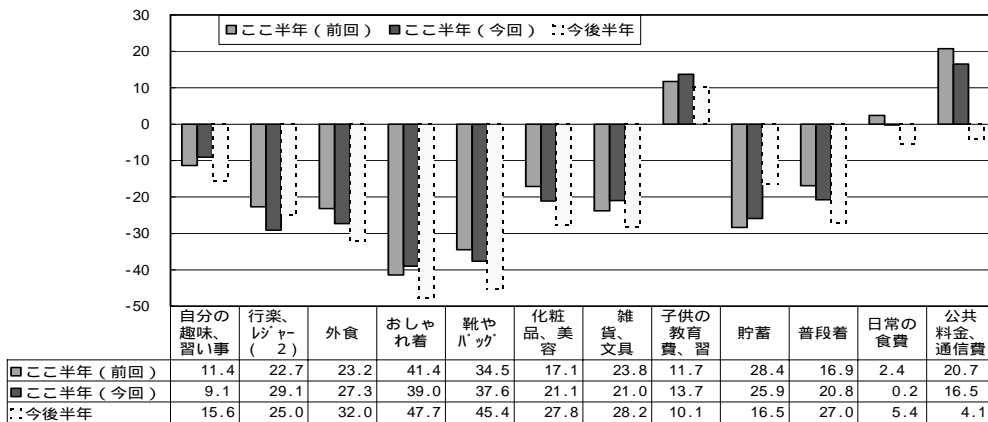
今後半年の見通しD.I.は前回調査に引き続き「子供の教育費」を除くすべての品目でマイナス水準であった。「おしゃれ着」、「靴やバッグ」や「外食」はいずれもマイナス30を超えており、しかもここ半年の支出D.I.より低い水準となっている（図表5）

支出：非日常的支出（現状と見通し）

ここ半年間の非日常的な支出（「購入した」割合）は「旅行（国内・海外）」が34.6%で最も多く、パソコン・デジカメなどの「情報家電」が31.3%、冷蔵庫・テレビなどの「家電製品」が27.4%であった。「旅行」が減って「情報家電」が伸びていた（図表6）

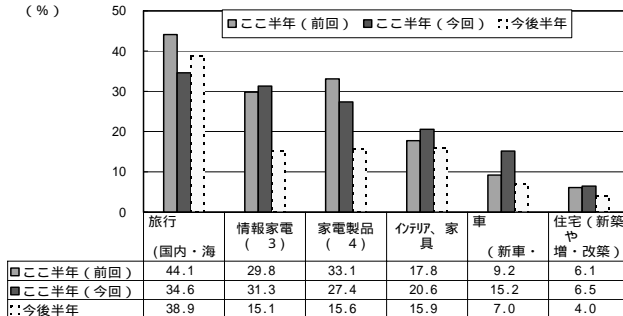
今後半年間の計画は「旅行」が38.9%と他よりも20ポイント以上予定している割合が高く、「情報家電」などは15%程度にとどまっている。これまでの調査から「支出計画の実行度合い」（注）をみると「情報家電」や「家電製品」、「自家用車」は予定よりも実際の購入が高くなる傾向が現れているが、それを勘案しても購入は減少傾向と予想される。

図表5 日常的な支出品目のD.I.
D.I. = 「増えた」（「増えそう」） - 「減った」（「減りそう」）



* 2 「行楽、レジャー」は、旅行(国内・海外)を除く

図表6 非日常的な支出品目のここ半年の支出割合と今後半年の支出計画有の割合（%）



* 3 「情報家電」とは、パソコン、パソコン関連機器、情報電話、ファクシミリ、デジタルカメラなど

* 4 「家電製品」とは、冷蔵庫や洗濯機、テレビやビデオなど情報家電以外の電気製品

図表7 非日常的な支出品目の支出計画の実行度合

| | H15.5 |
|---------------|-------|
| 1 旅行(国内・海外) | 82.8 |
| 2 情報家電(3) | 179.9 |
| 3 家電製品(4) | 135.0 |
| 4 ｲﾝﾌｧ、家具 | 95.8 |
| 5 車(新車・中古車) | 190.0 |
| 6 住宅(新築や増・改築) | 106.6 |

注) 実行度合 = (今回購入した / 前回購入予定) * 100